

# 第3学年国語科学習指導案

日 時 平成19年10月12日(金)公開授業2  
 生徒 上野中学校 3年B組  
 男子19名女子16名計35名  
 指導者 教諭 高橋浩子

## 1 単元・教材名

古典を楽しむ 学びて時にこれを習ふー「論語」から

## 2 単元について

### (1) 教材観

古典の指導のねらいは、「古典としての古文や漢文を理解する基礎を養い古典に親しむ態度を育てるとともに、我が国の文化や伝統について関心をふかめるようにすること」(学習指導要領「C読むこと」への留意事項)である。一定期間にまとめ取りするため、基礎を繰り返し学習させ定着させることは難しい状況である。さらに、漢文は耳慣れない言葉や見慣れない漢字や記号が多いためなかなか定着しにくい。

第3学年の古典の教材は、「万葉集・古今集・新古今集」「おくのほそ道」「論語」である。漢文に関しては、第1学年で故事成語、第2学年で漢詩を教材として、漢詩の形式や表現方法、訓読の仕方、漢文特有の言い回しなどについて学習してきた。

本単元では、漢文は「論語」の言葉を取り上げ、漢文を読む基礎知識を理解させること、音読を通して漢文特有の文体に読み慣れること、孔子の人間の生き方についての観察や思索をとらえ自分のものの見方や考え方を深めさせることをねらいとする。これらの学習を通して、現代にも通じる昔の人のものの見方や考え方を読み取らせたい。

### (2) 生徒観

真面目な学習態度で、課題に真剣に取り組んでいる。また、男女間の仲もよく、グループ学習も取り入れやすい。

右図は、漢文の学習について「おもしろい」か「難しい」か質問した結果をまとめたものである。現代語と異なる言葉や漢字への抵抗が大きく、漢文は生徒にとって難解であることが分かる。ただし、返り点を読み解いたり訳すことに興味を持ったり、新たな発見におもしろさを感じている生徒も多い。

事前テストで2学年の既習事項の定着度を調べた結果、「白文」を理解していた生徒が6名、「訓読文」を理解していた生徒が3名、「白文・

事前調査の結果		
	難しく ない	難しい
おもしろい	3名	17名
おもしろくない	0名	12名
おもしろい理由		
・なれない言葉が楽しい・記号で読むこと・言葉をたくさん知る・昔のことが分かる・「教え」が納得できる・読んで訳すこと・いろいろ発見がある・クイズのようだ		
おもしろくない理由		
・難しい・分からない・読めない・意味が分からない		

訓読文」両方を理解していた生徒は1名であった。また、書き下し文2問中2問正解が9名、1問正解が11名、記入したが正解なしが4名、未記入が8名で定着していないことがはっきり分かる。

2学年の漢文の学習活動で興味を持って取り組んだこととして、「音読」をあげた生徒が8名、「内容や訳」が5名、「書き下し文を書くこと」が4名、「返り点をつけること」が3名であった。このことから、「漢文を読むこと」に興味を持っていることが分かる。

これらの実態から、基礎的な事項を確認した上で、音読を中心に学習に取り組み、昔の人の見方や考え方が現代にも通じることを発見する学習にしたい。

### (3) 指導観

「個に応じた手だて」について

#### ・指導形態の工夫

毎時間授業の感想を文でまとめる時間を設定する。また、状況に応じていろいろな人数でのグループ学習を行うことにより生徒同士が助言を受けやすくしたり、理解を深めさせたりする。

#### ・個を生かす場面

グループ学習の際、生徒がお互いに教え合うことにより理解を深めたり、いろいろな意見を自分に生かしたりさせる。また、発表の場面において、一つの問題で複数に指名をしたりグループでの発表を行ったり、できるだけそれぞれが発表しやすく、いろいろな意見を吸い上げることができる形を取ることに留意する。さらにノート提出の際、模範となるノートを選び、そのコピーを廊下に掲示することにより、提出者の意欲を喚起したりノート作成の手本として活用したりする。

「評価の生かし方」について

頑張りカードを継続的に記入することにより、自分の授業への取り組み状況の推移が分かりやすく、反省をしたり目標を持ったりすることができる。また、感想を文でまとめるとき、できたことやわかったことを中心にまとめるよう指示しているので、次時に向けての意欲付けにもなる。さらに、授業中に見えない個々の生徒の努力や気持ちや疑問や理解度が把握できるので、それを次時に生かしたり、コメントでこたえたりするよう努力している。そして、自己評価は成績にも関係することを生徒に示している。

## 3 単元の目標

- ・昔の人の思いや考えをとらえ、古典を楽しむ

## 4 単元の指導計画(全11時間)

- 第1時 「学びて時にこれを習ふ」既習事項について確認をしながら音読を行う。
- 第2時 それぞれの言葉の口語訳をまとめる。
- 第3時 孔子の考え方について、現代にも通じる考えであることを理解する。(本時)
- 第4時 孔子や「論語」の言葉について思ったことをまとめて発表する。
- 第5時 古今和歌集「仮名序」を音読し、訳文を通しておおよその内容を知る。
- 第6時 「万葉集」を音読し、作者の心情や情景を短い文章にまとめる。

- 第7時 「古今集」「新古今集」を音読し、作者の心情や情景を短い文章にまとめる。  
好きな和歌を選び、鑑賞文を書く。
- 第8時 「夏草」1の部分の音読し、内容や表現の特徴をとらえる。
- 第9時 「夏草」2の部分の音読し、内容や表現の特徴をとらえる。
- 第10時 芭蕉のもの見方、感じ方をとらえた上で、俳句地図の俳句を鑑賞する。
- 第11時 漢字4・身の回りの漢字について調べる。

## 5 教材の評価規準

単元・教材名	古典を楽しむ 「学びて時にこれを習ふ」 『論語』から
教材の目標	(1) 昔の人の生き方や考え方について、感想を話し合ったり、文章にまとめる。 (2) 孔子の人間の生き方についての観察や思索をとらえ、自分のものの見方や考え方を深める。 (3) 音読を通して、漢文特有の文体に読み慣れる。
主な学習活動	(1) 「論語」のそれぞれの言葉の内容をまとめる。 (2) 孔子が述べている考え方について、自分の考えをまとめる。
評価規準	・「論語」の言葉について、自分の考えを持ち、グループで話し合ったり文章にまとめたりしようとしている。(関心・意欲・態度) ・孔子の人間の生き方についての考えにふれ、現代の自分たちの生活と比べながら、考えを深める。(読むこと) ・漢文の基本的なきまりを理解し、音読することができる。(言語事項)
評価の方法	プリント、観察、自己評価

## 6 本時の目標

### (1) 目標

孔子が述べている考え方が、現代にも通じるものであることに気づくことができる。

### (2) 本時の評価の観点と具体的評価規準

評価規準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手立て
評価の観点			
国語に対する関心・意欲・態度	・積極的にグループの話し合いに参加しようとしている。	・グループでの話し合いに参加しようとしている。	・声がけをする。
読むこと	・孔子の考えが現代にも通じるものであることを十分理解している。	・グループでの話し合いを生かして、孔子の考えが現代にも通じるものであることを理解している。	・どこでつまづいているのかを確認し、助言をする。
言語についての知識・理解・技能	・正しく積極的に漢文を音読している。	・正しく漢文を音読している。	・つまづきを確認し教える。 ・隣同士お互い教えあう。

(3) 展開

: 評価

: 手立て

	指 導 内 容	生徒の学習活動	留意事項と評価・手立て
導入 10分	1 頑張りカードの記入 2 前時の想起 ・漢文音読 ・漢文の意味の確認 3 課題設定 学習課題：孔子の声を近くで聞こう 4 学習の流れを把握	・頑張りカードを記入する。 ・「論語」の漢文を音読する。 ・「論語」の漢文の意味を発表する。	・頑張りカード配布。 評価言（発表） 白文、訓読文、全員で発表と段階を踏んで読ませる。 ・指名して発表させる。 ・本時の流れと評価規準を説明する。
展開 35分	5 範例の提示 6 プリント課題に取り組みさせる。 7 グループで意見を出し合う。 8 発表	・範例を理解する。 ・課題に取り組む。 ・グループに分かれ、お互いの考えを聞き合い、助言を受けたり自分の考えをさらに深める。 ・発表する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                         読むこと グループでの話し合いを生かして、孔子の考えが現代にも通じるものであることを理解している。                          Cの生徒への手立て                          どこでつまづいているのかを確認し、助言をする。発表を聞くことで理解を図らせる。                          Bの生徒への手立て                          他の課題にも自力で挑戦させる。                          Aの生徒への指示                          自分の答えにさらに付け加えたり、変更したりする点がないか再考させる。Cの生徒への助言をさせる。                     </div> 評価関（観察） 声がけをする。
終末 5分	9 自己評価 10 次時の予告	・学習を振り返り自己評価を行う ・孔子や「論語」の言葉について感想をまとめて発表することを予告する。	・頑張りカードに評価させる。